

未来予想図Ⅲ sanpai tribe

産業廃棄物処理業 経営塾OB会
東日本Aブロック

H27. 2. 25
平成26年度WS活動 成果発表会

主旨・目的

本年度 東日本Aブロックでは
持続して発展、成長すべき産廃業界の将来を
「未来予想図」という座標で見た場合の、いくつかの選択肢の中で
「海外展開」を切り口にその可能性を検討した。

背景

- ①我が国は先進的な環境技術を保有している。
- ②廃棄物が急増しているアジア進出には地理的な優位性がある。
- ③世界規模での環境負荷の低減に貢献でき、
かつ停滞しつつある国内経済の活性化の契機になる。



日本側の課題

そう簡単にはいかないよ・・・

- ①既得権益者との調整（安定した量の確保、利益の保証）
- ②環境意識・価値観の差、啓蒙
- ③技術・制度のバランス
- ④利益を現地で還元できるシステム（為替レート・関税）
- ⑤運営・管理一体型の対応
- ⑥人の雇用、仕事の創出 その他etc



現地の声

- ①「日本の環境技術の高さ、機械の性能・精度は充分評価」
- ②「進出後の責任感、細かい対応は評価するが、
決定までに時間がかかる。 欧米、韓国企業にコンペで敗北することもある。」
- ③「日本企業の工場は清潔で管理が徹底され、
驚くことに 廃棄物のストックヤードまで整頓 されている。」

(ホーチミン市郊外「ドンナイ省工業団地」での打合せの様子)



海外だからこそ 見えてくる...

我が国の高い環境水準

行政、監督官庁... 環境関連の各種法整備、規制、ガイドライン、指導、認定(環境配慮契約法、優良認定)

動脈排出先企業... 環境意識(CSRの徹底)、3Rの推進、目標管理
廃棄物抑制の商品設計、生産工程の改善

静脈循環産業... 処理技術の向上、削減提案、環境保全、
(処理事業者) 資源保全、運送費用、保管費用の改善



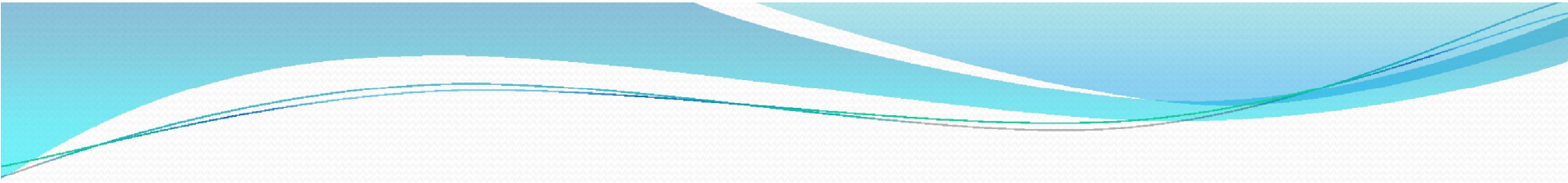
単に環境技術のみでなく、制度に基づいた
廃棄物管理をトータルで運営するシステムを、
排出者と処理業者で構築して「優良モデル」として海外に輸出。

まとめ

- 1、現地の環境貢献の為と同時に日本企業の為に行く
- 2、海外進出事業とのタイアップ・システム化を一般化
「動脈」「静脈」がセットであると言う認識を対外的にも発信
- 3、企業の海外進出は経済効果と同時に環境効果も提示
- 4、「外国人技能実習制度」の対象業種認定取得と活用、
人材交流と人材育成(アジアに日本ファンを増やす)
- 5、業界、業種の枠を超えた
「環境・チームJAPAN」としてのFSを活性化

海外進出の2つの形について
世界に進出すると云うホントの意味は・・・





ご清聴ありがとうございました。